

平成25年度

第1回 学校保健委員会



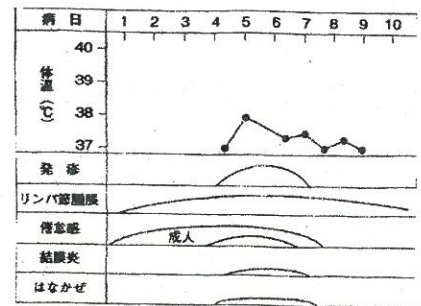
平成25年7月4日

福岡市立西新小学校

# 風 疹

## 臨床像

- ・ 冬～春～初夏にかけて流行する
- ・ 潜伏期：14～21日(平均16～18日)
- ・ 症 状：①発疹 バラ色の斑状丘疹で麻疹より小さめ  
孤立性で癒合性が少ない、痒みあり、色素沈着・落屑はない  
顔→耳→頸部→体幹→四肢の順に広がるが3日程で消退する
- ②発熱 軽度(40～60%は無熱)、発疹と前後して出現。2～3日で解熱
- ③リンパ節腫脹 発疹出現数日前から出現  
耳介後部・後頭部・頸部で圧痛あり、3～6週で消失
- ④眼球結膜の充血、軟口蓋の赤い点状粘膜疹(Forschheimer疹)、  
咽頭痛、頭痛、倦怠感、関節炎
- ・ 合併症：①脳炎(5,000例に1例) ②血小板減少性紫斑病(3,000例に1例)  
③溶血性貧血、肝障害、心筋炎(極めて稀)
- ・ 診 断：採血検査で血清抗体価を診る(HI4倍以上、IgM陽性)
- ・ 感 染：①発疹出現数日前から出現後7日まで他に感染させる  
②学校保健安全法施行規則第19条により発疹が消失するまでの  
出席停止が定められている



## 先天性風疹症候群(CRS) 風疹ウイルスの胎内感染による先天異常

- ・ 妊娠20週までのHI抗体16倍以下の妊婦の風疹感染でCRSのriskがある
- ・ 妊娠初期の胎児では免疫機能が未熟なため感染ウイルスを駆逐できず持続感染となり胎児の細胞増殖を抑制しさまざまな異常を生じる
- ・ 持続感染は生後数か月も持続し1年以上持続することもある(白内障)
- ・ 臨床像： ①新生児期：低出生体重、出血斑、肝脾腫、黄疸、溶血性貧血  
②持続的障害：Greggの3大症状  
I 白内障  
II 心疾患(動脈管開存、肺動脈狭窄)  
III 聴力障害(両側性高度感音性難聴)→最頻度  
妊娠初期ではこの2つ以上を合併、3か月以降では難聴のみ  
その他、精神運動発達遅滞も見られる
- ・ 診 断：臨床症状+血清診断(IgM、HI)
- ・ 胎児risk：一般に妊娠3か月以内で20%の頻度と言われる  
妊娠早期の感染であるほどriskが高い(Rendle-Short)  
2w→80%、4w→60%、6w→35%、10w→25%、16w→8%

## 疫学

- ・日本では1977年から女子中学生のみの定期接種で男子は接種していなかった
- ・1989年から幼児へのMMRワクチン(M:measles 麻疹、M:mumps おたふくかぜ、R:rubella 風疹)が導入されたが、副反応の可能性を指摘され1993年に中断
- ・1994年の全幼児が公費接種となったが、若年男性成人を中心に未接種者が500万人以上残り接種率は上がらなかった
- ・2004年の小流行時には全国で10名の先天性風疹症候群(CRS)
- ・2006年からMRワクチンが2回接種開始

### 2013年の流行

- ・全国で患者数1万人超、5月までで昨年の6倍の患者数、20~30代が中心
- ・男:女=5:1(女性は1977からワクチン接種男性は1995から)
- ・米では風疹流行地域として日本への渡航注意喚起が出た(CDC)

### 福岡市の現況

年	20年	21年	22年	23年	24年	25年
件数	9	13	1	62	16	97

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
24年	3	0	0	0	1	3	4	0	2	1	1	1	16
25年	5	2	10	29	51								97

	0~9歳	10~19歳	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50歳~	計
男性	1	7	20	30	17	6	81
女性	0	2	6	7	1	0	16

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
都道府県	東京都	大阪府	神奈川県	兵庫県	千葉県	埼玉県	鹿児島県	愛知県	福岡県	京都府
件数	2470	2055	1141	792	520	435	224	179	157	145

### ワクチン

- ・1回接種で95%免疫獲得、10~20年抗体価は持続。